

POWER UP

INTERVIEW

高 助 代表取締役社長

ほり けんいち
堀 健一氏

新潟の発展とともに140年。多角的な事業で地域を支える総合商社へ



PROFILE

1960年生まれ、新発田市出身。1979年 株式会社高助商店（現 株式会社高助）に入社する。2015年から取締役、常務取締役、代表取締役常務、代表取締役副社長を歴任し、2021年 代表取締役社長に就任。各種関連会社の取締役、監査役も務める。

●その他、主な所属団体
新潟県袋セメント卸協同組合 理事、社会福祉法人 新潟市社会事業協会 評議員、新潟県危険物安全協会新潟支部 会長、新潟県危険物安全協会 理事長

創業140年の歴史を誇る高助は、長年に渡り地域に安定的なエネルギーを供給し、新潟の経済発展に貢献してきた企業。社会の変遷をビジネスチャンスと捉え、総合商社としてエネルギー以外の事業も幅広く展開する同社の堀社長に、お話を伺いました。



株式会社高助

Tel: 0951-8055
新潟市中央区穂町通4ノ町2100番地
TEL: 025-222-7161
<https://www.takasuke-n.co.jp/>



大変なことがあっても、それを苦労とは思わずここまできました。同僚、先輩、上司、みなさんに助けられて今の自分があると思います



石油事業では県内外の提携給油所、官公庁・企業に向けて石油製品の安定供給を行っている。
(写真提供：ENEOS株式会社)



「隣保相愛」とは、それぞれの価値観と人格を尊重しあうこと。人を大切にする同社の企業理念だ。

石油事業で成長。 総合商社を目指し事業の幅を広げる

高助の歴史は4代目の高橋助七氏が北洋漁業と運送業の運営のため、1885年（明治18年）に高助商店を創業したのが始まり。以来、明治時代には食塩運送を、大正時代からはセメント・石炭の取り扱いを始め、1960年には石炭から石油への転換にいち早く着手。主力事業として成長を続けるとともに、建設資材販売・施工、一般貨物運送、塩卸売、ボトルウォーター販売、食品販売など、時代の変遷に合わせて事業の幅を広げてきた。「当社は長年燃料事業を柱とし、エネルギー総合商社として知られるようになりましたが、本当の意味での総合商社を目指して多角的な事業を展開しています」と堀社長。同社は、新たな分野に次々と挑戦して2023年にオープンしたのが、手洗い洗車とカーコーティングで愛車を輝かせ、フォトスタジオを併設している「BUZZ新潟」だ。「社員から“こういう店をやりたい”という声が上がったのがきっかけです。直営のガソリンスタンドでも車のコーティングは行っていますが、事業の中での差別化を考え、高級感のある専門店を目指しました」。

人を大切にするという経営理念、 進取の姿勢が企業の根幹に

今年1月1日に創業140周年を迎えた同社。「長年続けてこられたのは、何よりも人を大切にしてきたこと。そして時代に合わせた商品を取り扱うなど、常に新しい可能性を求めてきたからでは」と話すように、「人・隣保相愛」という企業理念を掲げ、「全従業員の物心両面の幸福を追求する

とともに、地域社会の進歩・発展に貢献する」という経営理念を実践してきた。「言葉使いや態度、行動など、いろいろな場面でその人の人間性が出るので、人の教育という部分が他社との差別化においても一番大切ではないかと思います」。

一つ一つの事業の幹を太くすることが 今後の成長に必要

同社の高橋秀松会長はかつて新潟商工会議所の副会頭を務め、現在は参与を務めるなど、同所との関わりも深い。「私自身は一会员として懇親会などに参加していますが、新潟のさまざまな業種の方と情報交換ができたり、親交を深められたりするのが商工会議所の良いところ。今後は廣田新会頭を中心に、会員みんなで盛り立てていければと思っています」。

今後の展望については、「例えばBUZZも、ガソリンや車関連事業の幹を太くするために始めたことの一つです。総合商社としてさらに成長するためには、石油、建材、運送、食品など、それぞれの事業の幹を太くしていくことが必要だと考えています」と堀社長。これからも多様な商品の販売、流通、サービスの提供を通して、地域の人々の暮らしを支えていく。



「BUZZ新潟」では、高度な技術を持つスタッフが最上級のコーティングを実現。お客様専用のフォトスタジオも併設し、スマホやカメラで愛車の撮影ができる。